



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

カタール経済：太陽光エネルギーに関するプロジェクト

(2月5日付カタール・トリビューン紙ほか)

2月5日付カタール・トリビューン紙とガルフ・タイムズ紙は、エネルギー工業省のムハンマド・サーリフ・アブドゥッラー・アル＝サーダ大臣が、太陽光エネルギーに関するプロジェクトを、2013年中に実施すると発言したと報じた。

1. アル＝サーダ・エネルギー工業大臣は4日、カタール送電・送水公社（Qatar General Electricity & Water Corporation, Kahramaa）が再生可能エネルギーに関するはじめてのプロジェクトを2013年中に立ち上げると述べた。第11回パワー・ジェンおよび第2回ウォーター・ワールド中東会議・展示会の合同開会式において、同大臣は、太陽エネルギーで5～10メガワット程度を想定し、パイロット・プロジェクトを実施し、2020年までに同プロジェクトを終了させると述べた。また、同大臣は、「2020年までに第二フェーズとして、カタール送電・送水公社の電力施設および水ステーションを利用して、太陽エネルギーにより発電量を200メガワットに増加させる」と述べた。
2. 同大臣は、中東地域の電力需要は、2010～2035年まで年間3.1%上昇するとの国際エネルギー機関の見通しに言及しつつ、最近の電力需要に鑑みれば、長期間の電力需要はこの数字以上になるとの見解を示した。また、同大臣は、水の消費についても言及し、2012年は前年比9%の増加であったと述べた。
3. 同大臣は、省エネに関し、カタール送電・送水公社が実施するタルシード・キャンペーンについて強調した。同キャンペーンは、今後5年以内に電力消費および水消費をそれぞれ20%減、30%減にすることを目標とする取り組みである。さらに、同大臣は、これら電力の買い取り制度などの法的な枠組みの導入にも言及した。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799